

科 目 名	演習 I	備 考
	4 単位	
単 位 数	4 単位	

渡 辺 裕 子

これからの社会福祉を考える

1. 目的と内容

新聞やテレビなどをみると、毎日のように老人や障害者などの福祉の問題が報道されています。これらの問題を見聞きすると、大変だとか、なんとかしなくては、と感じることが多いと思います。しかし、このような「一般的な感想」から、一歩進んで「どうしたらよいかを考える」ためには、様々な知識や技術が必要です。

このような問題へのアプローチは普通、全体社会や地域社会にどのような仕組みを作っていくかを考えていく方法（政策論的アプローチ）と、問題を抱える個人や家族にどのように支援していくかを考える方法（援助技術論的アプローチ）とに分けられます。どちらの方法も福祉問題の解決には必要ですが、このゼミではどちらかというと社会における福祉の政策や計画を学ぶことが中心になります。

この演習 I では、先ず春学期前半に、福祉政策を学ぶ上で必要となる社会福祉・社会保障の原理や制度体系に関する基礎的知識を習得します。春学期後半は、福祉政策の策定過程に必要な社会福祉調査の方法や、福祉ニーズの推計方法を始めとする社会福祉計画の理論や技法について学びます。秋学期の前半は、社会福祉の調査データや福祉関連の資料の分析方法等について勉強します。

秋学期の後半からは、卒業論文の指導を開始します。3年次では自分が取り組む研究分野を決定し、関連する基本文献について発表をしてもらいます。研究課題は個人ごとに異なっているので、演習 I の後半からは個別指導にも力を入れています。ゼミ生の最近の論文のテーマは、老人福祉や障害者福祉の分野が多いですが、他に児童・家庭福祉、生活保護、年金・医療制度、市民運動やボランティア活動など、多様です。

2. 履修前提科目と関連科目

2年次に、できれば「社会福祉論 I・II」を履修していること。3年次には、「社会福祉政策」「社会保障論」を同時に履修することが効果的です。

3. テキスト

演習 I では始めに、基本的なテキストとして、坂田周一(2000)『社会福祉政策』有斐閣、を輪読します。また、サブテキストとして、椋野美智子・田中耕太郎(2003)『はじめての社会保障—福祉を学ぶ人へ』有斐閣、定藤丈弘・坂田周一・小林良二編(1996)『社会福祉計画（これからの社会福祉8）』有斐閣、などを読みます。

演習 I の後半～演習 II では、小笠原喜康(2002)『大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、を使用する予定です。

4. 単位認定条件

演習 I では、テキストに沿った問題プリントを予習用として配布します。このプリントの整理と、社会福祉に関するデータ分析レポートにより、評価します。また、学年末には、卒業論文の中間レポートを提出してもらいます。

春 学 期 授 業 計 画		秋 学 期 授 業 計 画	
第 1 回	ガイダンス	第 1 回	社会福祉データの分析—福祉計画の策定①
第 2 回	『社会福祉政策』—社会保障の体系と機能	第 2 回	社会福祉データの分析—福祉計画の策定②
第 3 回	『社会福祉政策』—福祉の法と福祉サービス	第 3 回	社会福祉データの分析—福祉計画の策定③
第 4 回	『社会福祉政策』—福祉サービスの提供機関	第 4 回	社会福祉データの分析—調査報告の作成①
第 5 回	『社会福祉政策』—社会福祉の費用と財政	第 5 回	社会福祉データの分析—調査報告の作成②
第 6 回	『社会福祉政策』—福祉改革の要因	第 6 回	社会福祉データの分析—調査報告の作成③
第 7 回	『社会福祉政策』—福祉改革の背景	第 7 回	卒業論文の書き方
第 8 回	『社会福祉政策』—福祉政策と市場経済	第 8 回	ゼミ発表会の準備①
第 9 回	『社会福祉政策』—社会福祉政策の未来	第 9 回	ゼミ発表会の準備②
第 10 回	補足・予備	第 10 回	ゼミ発表会の準備③
第 11 回	福祉政策の方法論—福祉計画の理論と方法①	第 11 回	卒業中間発表①
第 12 回	福祉政策の方法論—福祉計画の理論と方法②	第 12 回	卒論中間発表②
第 13 回	福祉政策の方法論—福祉調査の手法①	第 13 回	卒論中間発表③
第 14 回	福祉政策の方法論—福祉調査の手法②	第 14 回	演習 II・卒論発表会
第 15 回	試験	第 15 回	試験